

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まっている。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、 \_は下方に変更)。

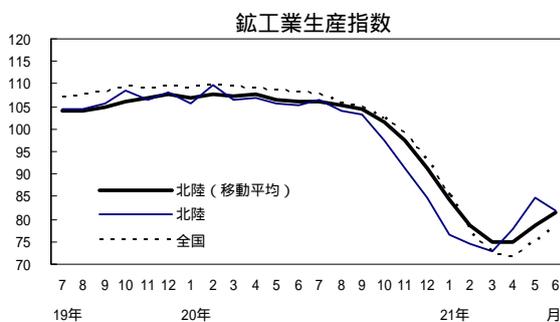
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	急速に悪化	下げ止まりつつある	
鉱工業生産	大幅に減少	下げ止まっている	
雇用情勢	極めて急速に悪化しつつある	急速に悪化	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は下げ止まっている。

一般機械は、中国向け金属工作機械等に動きがあったものの、主力の建設機械や工作機械が減少し、全体でも減少している。電子部品・デバイスは、デジタル家電や携帯電話向けに、電子部品や半導体素子が大幅に増加している。化学は、医薬品を中心に増加している。金属製品は、住宅需要の低迷により、建設用金属製品や建築用金属製品が減少したものの、足もとでは持ち直しの動きがみられる。繊維は、自動車内装向け等の非衣料繊維が増加しているものの、衣料向け繊維が減少しているため、全体では減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の大線は後方3か月移動平均。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	16.2	39.1	7.8	-	-
電子部品・デバイス	15.8	29.3	57.5	-	-
化学	14.5	4.1	9.6	-	-
金属製品	9.2	10.0	1.0	-	-
繊維	8.5	15.2	5.2	-	-
鉱工業	100.0	18.1	9.0	-	-

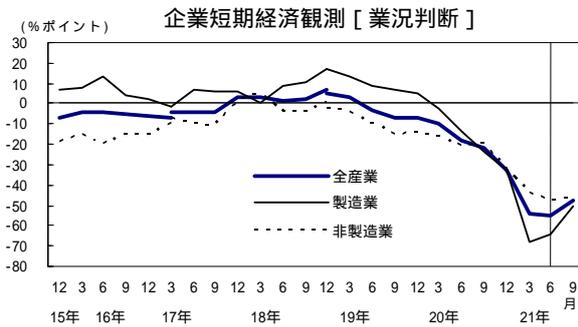
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期は速報値。

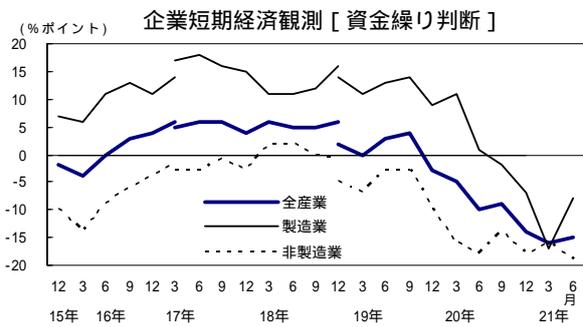
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

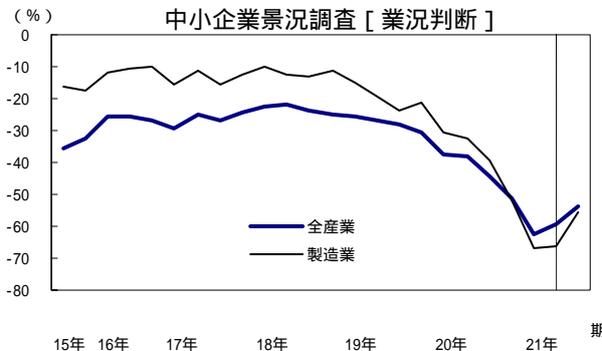
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。  
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

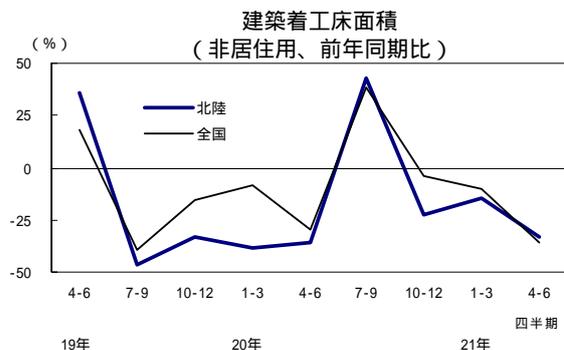
「受注は、2月を底にして3～6月までは回復の兆しがみられたが、7月後半から8月にかけては踊り場の状況となり、受注は伸びていない。9月以降の受注も不透明な状況である(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	24.3( 0.2)	32.3( 8.2)
製造業	25.7( 0.6)	34.0( 9.8)
非製造業	20.9( 0.7)	28.5( 4.5)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

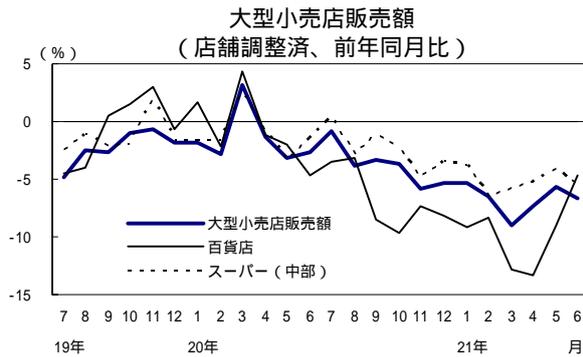
### 大型小売店販売額

百貨店は、4月は、主力の衣料品や高額商品の不振が続き、前年を下回った。5月は、物産展が好調だったことから、前年比マイナス幅は縮小したものの、衣料品や高額商品が引き続き不振だったため、前年を下回った。6月は、中元商戦やクリアランスセールの前倒しにより、前年比マイナス幅が縮小した。

スーパーは、新型インフルエンザ発生により備蓄用食料品が好調だったものの、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「6月の売上はバーゲンの前倒しで良かったが、7月に入ると天候にも恵まれず、梅雨明けが遅れていることもあって、夏物衣料に勢いが出ず、前年比10%程度のマイナスとなっている(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



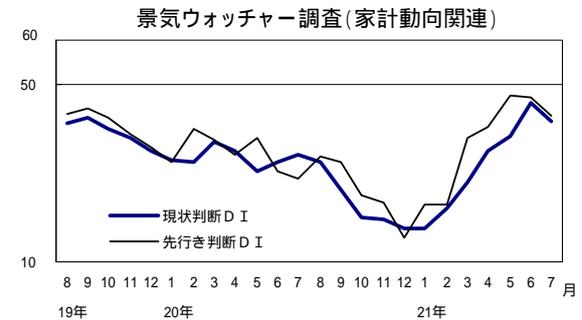
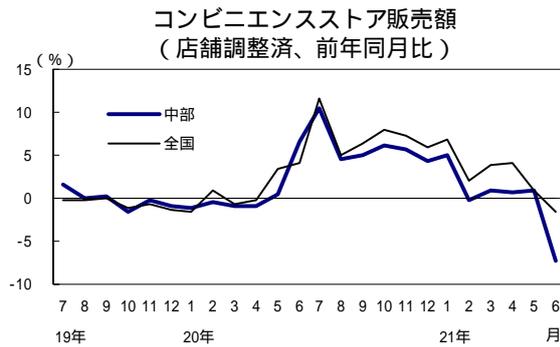
	(前年同期比、%)			
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	2.6	5.1	6.9	6.5
百貨店	4.9	8.3	10.2	9.1
スーパー	1.3	3.6	5.2	5.0
乗用車	3.7	15.2	24.1	18.7
景気ウォッチャー	30.9	18.9	22.4	39.8

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。スーパーは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

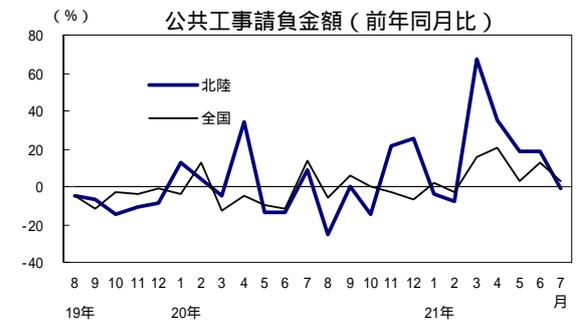
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

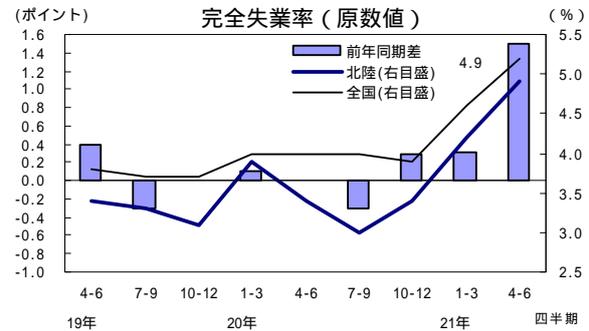
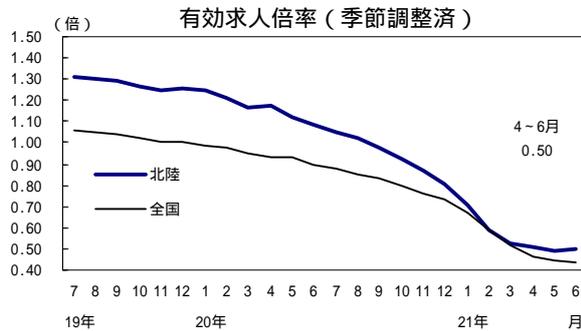


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

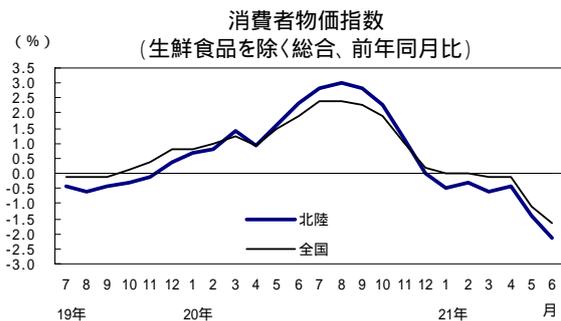
「新聞や求人雑誌の求人広告は減少が続いている。募集内容も飲食業のパートなど、基幹産業以外がほとんどである（新聞社 [求人広告]）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	109	133	117	103	36
(前年比)	53.5	47.8	13.6	12.0	0.0
負債総額	816	334	565	209	255
(前年比)	334.4	27.3	12.6	33.9	52.8



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・インターネットでのセール品の売上は大きく伸びている。特に、若い層は休日利用、主婦等は平日に注文を出している。おしゃれで安価な衣料への反応は速く、しかも多い（商店街）

<先行き>

・ものづくり中小企業製品開発等支援補助金に多数の客が申請をしている。承認されれば機械受注につながると予想している（一般機械器具製造業）

